

2014年東北海区の海況の特徴

奥西武・笥茂穂・和川拓・長谷川大介・奥田邦明（東北水研）

関係各機関及び東北区水産研究所の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図、並びに NOAA 衛星の熱赤外画像、Jason-2・Envisat 衛星による海面高度観測結果に基づいた海況の経過の特徴を以下に述べる。ここでは現時点で品質管理が終了している10月までのデータのみで経過について発表する。なお、近海の黒潮北限位置は1954～2011年のデータを用いて統計値を計算し、平年並み等を定義している。親潮第1分枝先端緯度については、1960～2011年までのデータを用いて、平年並み等を定義している。

1. 2014年の海況の経過（1～10月まで）

表面水温

(1) 東北沿岸では5月までは低めで推移し、6月以降は平年並みで推移した。東北沖合では、5月までは低めで推移し、6月～7月にかけて高めで推移、8月以降は平年並みで推移した。

黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離接岸は、概ねやや接岸から接岸であった。

(2) 近海の黒潮の北限位置は、1月～7月は概ね平年並みであったが、8～9月はやや南偏～かなり南偏で推移し、10月はやや北偏に転じた。

混合水域

○黒潮系暖水

(1) 近海の北限位置は、1月～3月は平年並みで推移し、4月～7月はかなり南偏で推移し、8月～10月は平年並みに転じた。

○暖水塊

2010年8月に常磐沖で認められた2010Gは、2014年1月～10月まで釧路沖に停滞した。2013年12月に金華山沖で確認された暖水塊2013Bは、3月

には消滅した。2014年1月に金華山はるか沖で確認された暖水塊2014Aは、5月に消滅した。2014年6月に三陸近海に認められた2014Bは、10月まで停滞し、11月には消滅した。2014年6月に常磐沖に2014Cが認められ、7月には消滅した。2014年7月に金華山はるか沖で確認された暖水塊2014Dは西進し、三陸沖に移動した。

親潮域

○親潮第1分枝

(1) 親潮第1分枝は、2月と4月はやや北偏、3月は平年並み、5月に一時的にやや南偏に転じた後、6月～8月は平年並みで推移した。その後、9月はやや南偏、10月は平年並みで推移した。

(2) 第1分枝に連なる冷水が、4月、6月に三陸沖に存在した。

○親潮第2分枝

(1) 親潮第2分枝の先端緯度は、7月にかなり南偏であった以外は、概ね平年並みで推移した。

(2) 第2分枝に連なる冷水が、1月、10月に三陸はるか沖合で確認された。

津軽暖流域

下北半島東方での張り出しは、弱勢(3月)、強勢(4月)、弱勢(5、6月)を繰返した後、7月以降は平年並みで推移した。

2014年における海況の特徴

(1) 沿岸水温では5月までは低めで推移し、6月以降は平年並みで推移した。

(2) 暖水塊2010Gが4年以上に維持されている。

(3) 親潮第1分枝の張り出しは5月までは強い傾向、6月以降は平年並みであった。近海の黒潮の勢力は6月までは平年並み、7月～9月は弱い傾向であった。